Opinion

オピニオン：このページは会員の意見を紹介するページです。

日の出町ゴミ処分場問題この一年をふりかえって

江川美穂子

ＮＨＫの９５年首都圏の１０大ニュースは、１位がオウム、２位が青島知事誕生、そして３位が日の出町ゴミ処分場問題でした。（彼女達は、その内の２つを共有してしまった。）夏には、都知事への面会を求めて、都庁のロビーで２１日間の座り込み（都知事候補者に公開質問状を出し、青島氏は万年筆で水質データの「開示は当然」と書いた。――しかし結局、会わなかった。）をやり、マスコミは、いっせいに日の出問題を報道しました。私は、この問題にかかわって４年になりますが、この１年の何と目まぐるしかったことか？！非公開を前提とした都の公害審査会の調停が不調に終わり、裁判へと進んだことで、いっきに日の出町のゴミ処分場問題は全国から注目されることになりました。それは、司法の決定にも従おうとせず、間接強制金を支払い続けてまで、処分場に関する水質データなどを隠し通そうとする処分組合の体質が暴露されたからだった。また、ゴミの処分と引き替えに、処分場の管理運営にいっさい口を出さず、次の処分場確保のためには、全てを正当化し、動員されるがままに動く処分組合構成自治体（三多摩の市長及び市議）の姿は、私たち市民にとっては耐えられないものだった。２７もの自治体に寄る巨大な一部事務組合は、形ばかりの議会（彼女達は傍聴してる）があっても民主的な運営からは程遠い。反対の意見を言う議員は、すぐ交替させられたし「お前の市のゴミは、捨てさせないぞ」とおどされ、その市の市長ともども、あやまりに行かされた、と言う話も聞きました。ゴミの捨て場のためには、とにかく口をつぐんで処分組合に従っていなければならない・・・という不文律が、そこにはあるのだ。そのため、処分組合議会はもとより、各市でのデータ開示の請願・陳情さえも、不採用になってしまう市が少なくなかった。行政にとっては、安上がりに、しかも、自分達の手をわずらわすことなく、ゴミの処分ができる広域処分方式は願ってもないものでしょう。分担金を支払い、処分組合におまかせしていればすむのだから。

一部事務組合による広域処分の問題と供に、日の出の運動が強く世に訴えたことは、処分場による水汚染の深刻さということでしょう。一昔前のゴミと異なり、現代のゴミは焼却することで、猛毒のダイオキシンさえ生成してしまう。従って、最終処分場内には多量な有害物質が蓄積されるため、その汚水の安全管理が重大なポイントとなっています。しかし、日の出の谷戸沢処分場の汚水漏れにみられるように管理型処分場のモデルとして造られたにもかかわらず水質データを公開できない事態となっています。全国的に見ても、処分場は水の湧く谷間に造られることが多く、水源地汚染の危機感は日の出だけの問題ではなくなっています。命の水を守れ、という声は全国から寄せられ、谷戸沢の隣の谷間に造られようとしている第２処分場予定地で展開しているトラスト運動の参加者は、既に１，０００名を越えました。しかし、１２月２１日の青島都知事の「事業認定」によって、この共有地主の土地は、強制収用もあり得る事態へと進みつつあります。この時代に、権力の手で土地を奪い取ることが許されてよいことでしょうか。谷戸沢処分場の汚染問題は何一つ解決されていないというのに。私たちは、これからも水源地汚染につながる処分場建設に反対することで、焼却・埋立てのゴミ処理からの転換と、ゴミにしない生産・流通・消費のシステムづくりを求めて（彼女達は提言してる）いきたいと思います。何としても、このまま第２処分場の建設を許してはならない。あなたも水源地にゴミ処分場を造らせないナショナルトラスト運動に参加して、共有地主になって下さい。

問い合わせ　　日の出の森トラスト運動事務局
ＴＥＬ＆ＦＡＸ　０４２５（２８）４４５３

メモ：長谷川　文昭
会報　ＮＯ．２では自区内処理を実現する市民プロジェクトの代表の服部さんの大局的な話をレポートしましたが、今回は、このOpinionのページへの肉弾戦の現場的アピールを会員外ですが、江川さんに忙しい中お願いしました。三多摩の若い主婦の方（江川美穂子さん）です。御主人から「もっと子供の面倒も看ろ」とクレームが付くそうです。環境問題に関心があり、日の出の問題に出会ってしまったようです。日の出町・三多摩・都庁・厚生省（霞が関）、驚くばかりの行動力・エネルギーを彼女達は発揮してます。僕は、＜青島さんと東京を変える市民ネットワーク＞で知り合いました。日の出町――処分組合（三多摩）――青島都知事（都政）――国、が垂直に貫かれています。監修・梶山正三「ごみ問題紛争辞典」（リサイクル文化社９５．９）、田島征三「森に棲みついた悪魔」（法蔵館）・「森からの手紙」（労働旬報社）大前さんは、今問われているのは日本人のモラルハザードの度合という、日の出町の問題は、私たち自身のそれを計るメルクマールではないかと考えています。（R．ドーキンスが「利個的遺伝子」というように、先住民・タオ・ウェーダはそれ（モラル）を乗り越える思想を持っていたに違いない。）ダイオキシンとリプロダクティブ・ヘルス（リプロ・ヘルス）、都のゴミ処理の２３区への移管・焼却場を造らせない！立場からの運動が必須、いろいろあるが省略します。